

地域医療の現場から



離島医療に今できること

国保天草市立御所浦診療所 看護師長 森豊美

病院の概要

- 設立年月：昭和 36 年 4 月
- 許可病床数：6 床
- 職員数：12 人（医師 1 人、
看護師 5 人）
- ※12 人中臨時職 5 人



海に面した御所浦診療所

離島における診療所かつ一次医療機関としての役割

御所浦町は、平成 18 年に市町村合併が行われる前までは、県下唯一の離島の町でした。大小 18 の島々から成り、三つの有人島に 3,395 人が住んでおり、そのうちの約 39.6%が高齢者という少子高齢化の町です。

この有人島の一つ「御所浦島」に国民健康保険天草市立御所浦診療所があります。無床診療所として、慢性疾患のマネジメントの日常診療に加え、在宅医療、隣の島への巡回診療、保育所・学校等の健診、予防接種などの包括医療を行っております。しかし、ひとたび重症患者が発生すると、医療資源の乏しい当診療所では完結できないため、島外の医療機関へ緊急搬送を余儀なくされます。このような現状から、一次医療機関として中核病院（上天草総合病院・天草地域医療センター）等との連携を深め日々の診療業務に努めています。

天候の不安を抱える離島医療

離島の診療所で一番不安なことは天候です。足場が悪く細い坂道も多く、高齢で足の不自由な人は移動にも危険を伴います。また、台風接近時等には海が荒れ、交通が遮断されるため、重症患者の緊急搬送ができなくなります。重症患者の場合、移動できないことは命にかかわる危険も出てくるのです。

数年前の台風接近時、呼吸困難で当診療所に救急搬送された患者さんがいました。到着時、血圧上昇（収縮期 200mmHg 台）、SpO₂（動脈血酸素飽和度）は 80%台、レントゲンでは気胸の疑いがあり、一刻も早く医療体制の整った病院への搬送を必要とされましたが、悪天候のため、救急艇（海の救急車）が出動できず当診療所にて酸素吸入と輸液の処置で経過を見ることになりました。半日以上経過し、ようやく救急艇が出動できるまで天候が回復し、患者さんを搬送して事なきをえました。もし、この患者さんが心臓疾患や、脳卒中だった場合どうなっていたのでしょうか……。離島医療の問題点がここに 있습니다。こういったケースは決して少なくはないのです。私たちは島の人々が不安なく、安心して医療が受けられる環境づくりに向けて日々模索しております。

患者さんと共に島の健康を守っていく

当診療所では、慢性疾患の急変、増悪を防ぐため、「自分たちに何ができるか」常日頃からスタッフ間で検討し、毎日の診療に取り組んでおります。

御所浦は海産物が豊かで、塩分摂取が多いせいか高血圧の患者さんが多く見られます。数年前より医師の指導のもと、血压管理に重点をおき、自宅での血压測定を呼びかけてきました。根気よく指導してきた結果、今では診察時に患者さん自ら血压手帳を提示するまでとなり、患者さんの中でも血压測定は日常生活の一部となっています。それと同時に内服の飲み忘れや誤飲を最小限に防ぐため、内服の一包化・日付入り、お薬カレンダーの利用など、個々の患者さんに合わせた工夫を行っております。患者さんからも「ありがとう。助かります」など多くの声をいただき、私たちスタッフもその患者さんの声が励みとなっております。

しかし、私たちが患者さんを支えているのではなく、私たちが患者さんに支えられていると実感しております。

私たち医療従事者が今できること、それは島の人々が健康で、この住み慣れた豊かな御所浦で楽しく安心して暮らしていけるようサポートさせていただくことであり、これからも島の人々のニーズの一つでも多く応える医療を目指して、頑張っていきます。



海上タクシーに乗り込む院長。穏やかな日はいいが、離島医療は荒れる天候との闘いでもある



狭い路地を歩いて往診先に向かうことも多い。「患者さんが待っています！」